小児慢性副鼻腔炎難治例に対する漢方治療

岡村由美子・高野 信也・荒牧 元

Kampo Therapy to Treat Intractable Chronic Sinusitis Patients

Yumiko Okamura, Shinya Takano and Hajime Aramaki

(Tokyo Women's Medical College Daini Hospital)

Low-dose administration of macrolide antibiotics has been reported to be effective in the treatment of chronic sinusitis. This paper reports the effects of Shin'i-seihai-to in patients whose symptoms did not improve despite extended administration of low doses of erythromycin. The subjects included four male and six female patients with chronic sinusitis whose symptoms did not improve after an average of 7.5 months of extended administration of low-dose erythromycin. Their mean age was 7 years. Two weeks after the administration of Shin'i-seihai-to, a slight or better improvement in nasal discharge was reported in approximately 70% of the subjects. Approximately 70% reported improvement in nasal obstruction, and 20% in the frequency of nose blowing. Changes in nasal secretion were seen within 7 days. One patient suffered a mild gastric disorder. Although Shin'i-seihai-to was administered without assessing objective signs of improvement, subjective symptoms improved and X-rays of the paranasal sinuses in a high percentage of subjects. Kampo medicine was determined to be both easy to administer and useful in the treatment of chronic sinusitis.

Key words : chronic sinusitis, Shin'i-seihai-to, child

はじめに

慢性副鼻腔炎に対しマクロライド少量長期投与が効果あるという報告はいくつかされている。当科においてもエリスロマイシン少量長期投与にて改善をみた慢性副鼻腔炎の症例は少なくない。しかし、エリスロマイシン少量長期投与にも係わらず症状改善のみられない症例も認められ、それらに対して我々は漢方治療を試みた。慢性副鼻腔炎に効果があるとされる漢方エキス製剤のうち、辛夷清肺湯を投与しその効果を認めたので報告する。

対象と方法

対象は、エリスロマイシン少量長期投与6カ月～18カ月、平均7.5カ月にて症状改善のみられなかった小児慢性副鼻腔炎の症例10例で男4例女6例、年齢は5歳～13

歳、平均7歳である。この中にはエリスロマイシン少量長期投与ののち荊芥連翹湯を投与施行し十分な効果の認められなかった3例も含まれている。ツムラ辛夷清肺湯は1日5gまたは7.5gを証を考慮せずに投与した。他の治療として、エリスロマイシン少量投与時から同様に施行していたプレッツ置換法による副鼻腔洗浄を週1回程度施行した。

結 果

辛夷清肺湯投与から2週後の自覚症状の改善状況を図1に示す。鼻漏は改善・やや改善をあわせて70%、鼻閉も70%と高率に改善が認められた。鼻かみ回数は20%に改善・やや改善が認められた。次に鼻汁の変化であるが、性状としてはサラサラするが90%、色調として、透明に

図1 自覚症状の改善(投与2週後)

なるが80%であった(図2)。

これら症状改善出現までの投与日数および鼻汁性状の変化を表1に示す。投与1週後に鼻漏は10例中4例に、鼻閉は10例中3例に改善がみられ、鼻汁の性状はこの時期に変化が認められた。投与後比較的早期に鼻汁の粘稠性が低下することで、鼻のかみやすさが生じたために、鼻かみ回数自体の減少は早期には認められなかったが、その後鼻漏が減少し、鼻かみ回数も減少したと考えられる。

次に副鼻腔X線上的改善状況を示す(図3)。辛夷清肺湯投与前には上顎洞陰影は全例に認められたが、投与後5例に高度陰影改善が認められた。篩骨洞に関しては、

図2 鼻汁の変化(投与2週後)

表1 症状改善出現までの投与日数および鼻汁性状の変化

	症 状			鼻汁の性状	
	鼻漏	鼻閉	鼻かみ回数	透明	粘度減少
1～7日	4例	3例	0例	8例	9例
8～14日	3	4	2	0	0
15日以上	1	1	5	0	0

投与前6例に陰影があり、投与後は軽度陰影の認められるものは3例のみとなった。

また、副作用に関しては10例中1例に軽度の胃腸障害が認められたのみであった。

次に、辛夷清肺湯にて慢性副鼻腔炎の著明改善のみられた症例を報告する(表2)。症例は7歳女児で、2歳頃

図3 副鼻腔X線(Waters, Caldwell撮影法)上の改善状況

表2 経過

	H.7 12月	H.8 1	2	3	4	5	6	7	8月
E M 200mg/日			荊芥連翹湯 5g/日					辛夷清肺湯 5g/日	
鼻漏の粘性									
性状									
XP 上顎洞の陰影	篩骨洞	+					—		—
	上顎洞								
	右	+					±		—
	左	+					+		—

より鼻漏，鼻閉を訴えていた。既往歴として平成6年5歳時にアデノイド切除術および，口蓋扁桃全摘出術を施行している。当科にて，慢性副鼻腔炎と診断し，平成5年より治療していたが軽快しないため，平成6年プレッツ置換法による副鼻腔洗浄を開始し，その後エリスロマイシン少量投与を約1年継続施行したが，改善をみないため，平成7年12月中止，平成8年1月より漢方治療を開始した。まず副鼻腔炎に効果ありとされる荊芥連翹湯の投与を開始した。鼻漏の量の減少，粘稠度の低下もみられたが，約5カ月の投与にて，X線上の改善が著明でなかったため，投薬を辛夷清肺湯に変更した。変更後ま

もなく一過性に鼻漏の量が増加したが，2週目ころより減少，1カ月後には著明な減少がみられた。投与後1カ月半の時点で，X線上副鼻腔陰影の改善が認められた。

エリスロマイシン少量長期投与中止時と辛夷清肺湯投与1.5カ月後(図4，5)の副鼻腔のX線写真を示すが，投与後は，篩骨洞・上顎洞ともに著明な改善を認めた。

考 察

辛夷清肺湯は鼻閉，慢性鼻炎，慢性副鼻腔炎に適応があり，証では実証から中間証に有効とされている。辛夷清肺湯の主薬である辛夷は鼻閉に効果があり，また，膿

図4 EM少量長期投与中止時(左) 辛夷清肺湯投与1.5カ月後(右)

図5 EM少量長期投与中止時(左) 辛夷清肺湯投与1.5ヵ月後(右)

性鼻汁の軽減にも効果があるとされている。当科受診中の症例は膿性鼻汁のみならず鼻閉を訴えるものが多いため当薬剤を使用した。辛夷清肺湯の単剤投与の報告例として、小児副鼻腔炎に対し使用した渋谷¹⁾の報告があり、投与2週後高度改善率68.8%，4～8週後81.3%である。当科においても投与2週後鼻漏・鼻閉ともに70%の改善が認められ、高率に改善が認められた。

ま と め

我々はエリスロマイシン少量長期投与にて改善のみられない小児慢性副鼻腔炎患者10例に対しツムラ辛夷清肺湯の単剤を投与した。その結果、高率に自覚症状および

副鼻腔X線所見に改善が認められた。自覚症状の改善は比較的早期より認められ、投与後14日以内に鼻漏70%鼻閉70%に改善がみられた。また、鼻汁性状の変化は7日以内に認められていた。副作用は、軽度の胃腸障害が1例認められたのみであった。証にこだわらず投与したが、高率に効果が認められ、投与しやすい漢方製剤と考えられた。

参考文献

- 1) 渋谷知子：小児の難治性慢性副鼻腔炎に対する辛夷清肺湯の使用経験。Prog Med 15：901～903, 1995.